

蕨市立病院運営審議会 会議録

【日 時】 令和3年11月5日（金）午後2時～午後3時15分

【会 場】 蕨市保健センター 2階 健康教育室

【出席者】 (敬称略)

出席委員 加瀬勝一、原澤茂、大石圭子、宮下奈美、根本浩、飯田勉、
須賀久美江、平野玲奈

欠席委員 小山祐康、横田秀雄

病 院 側 頼高英雄(開設者蕨市長)、鷺見禎仁(蕨市立病院長)、
濱浦睦雄(同医務局薬剤部長)、白畑多加江(同医務局看護部長)

事務局側 田谷信行(事務局長)、小川淳治(同次長兼庶務課長)、
堀田義信(同庶務課長補佐)、小峰聖仁(同庶務課医事係長)、
元井純(同庶務課主査)、平田剛(同庶務課主査)、白石由奈(同庶務課主事)

【内 容】

1. 市長挨拶

2. 議題

(1) 会長の選任について

(2) 令和2年度決算の概要及び令和3年度の状況について

(3) 新型コロナウイルス感染症対応について

(4) その他

配布資料

資料1-1 令和2年度決算資料（業務量）

資料1-2 令和2年度決算資料（損益計算書）

資料2-1 令和3年度の状況（患者数の推移）

資料2-2 令和3年度の状況（8月末執行状況）

資料3 新型コロナウイルス感染症対応について

資料4 蕨市立病院運営審議会委員名簿

【会議の概要】

開会（事務局）

1. 市長挨拶

【市長】本日は大変お忙しい中、当審議会に参加いただき感謝申し上げます。令和2年度はコロナの感染拡大により開催を見送ったため、今回は委員の改選後初の開催となる。

新型コロナの感染者は大幅に減少し、10月から緊急事態宣言が解除されたが、引き続き基本的感染防止対策をお願いしている。蕨市では市独自の5回にわたる新型コロナ緊急対策の実施や、ワクチン接種については高齢者の約91%の方が2回目、市民全体でも約82%の方が1回目、76%の方が2回目の接種を終えるなど順調に進めることができている。

市立病院における新型コロナ対応としては、保健所の要請による行政検査、陽性患者の入院受け入れ、発熱者の診療検査等を行う中で、ワクチン接種にも最大限取り組んできた。経営面では全国的な診療控えの中で厳しい状況に直面しており、入院患者・外来患者ともに大幅に減少し、令和2年度の決算等については大変厳しい結果となった。蕨市として、地域の中核病院として市民の健康を守っていくという点で引き続き安定的な経営に向けて取り組みを進めていく所存である。その他、将来構想に沿った取り組みとして、蕨・戸田の医療圏の中で地域の救急医療、小児の救急医療や、市内唯一の分娩できる施設という状況もふまえて、今後も急性期医療の中核となる病院として取り組んでいく。また、施設の老朽化・耐震化対策のため、内部の検討委員会による検討などを進めていく。国の地域医療構想に関わる課題についても、調整会議はコロナの影響で中断していたが、その動向を注視しながら、市立病院に求められる役割を病床機能も含めて検討していく必要があると考える。病院、医療というものを非常に身近に感じる一年半であり、改めて市立病院の役割の大きさというものを考えさせられた。本日は令和2年度決算、令和3年度の上半期の運営状況、病院におけるコロナ対応等を報告させていただく。委員の皆様の忌憚のないご意見等を伺い、これからの運営に活かしていく所存である。

2. 議題

(1) 会長の選任について

会長の選任に先立ち、各委員から自己紹介があった。

その後、推薦により会長に大石委員、会長代理に小山委員が選任された。

(2) 令和2年度決算の概要及び令和3年度の状況について

上記のことについて、事務局から説明した。

資料1-1 令和2年度決算資料（業務量）

資料 1 - 2 令和 2 年度決算資料（損益計算書）
資料 2 - 1 令和 3 年度の状況（患者数の推移）
資料 2 - 2 令和 3 年度の状況（8 月末執行状況）

説明後、次のとおり質疑応答が行われた。

【委員】昨年度のコロナに関する補助金について、国・県・市の合計金額は。

【事務局】昨年度のコロナ関係補助金・支援金は県と国と蕨市合計で 1 億 2,550 万 7,000 円である。

【委員】一般会計繰出金 2 億 5,000 万円にプラス 1 億 2500 万ということか。

【事務局】繰出金 2 億 5,000 万円とは別に、蕨市からは支援金 1 億円を受け取っている。

【委員】常勤医師数とその内訳はどうか。

【事務局】常勤医師数は、16 名である。内訳は、内科 6 名、外科 2 名、小児科 2 名、整形外科 2 名、産婦人科 3 名、眼科 1 名である。

【委員】リクルートで集めたのか、東京医大関連のローテーションなのか。

【事務局】基本的には東京医大からの派遣であるが、産婦人科 3 名については埼玉医大からの派遣、小児科の 2 名と整形外科の 2 名の医師は一般公募である。

【委員】公立公的病院の再編統合で名前が挙がった蕨市立病院であるが、今後も急性期 130 床という気持ちは変わらないのか。

【市長】蕨・戸田という医療圏で救急医療を含め重要な役割があるため、130 床の急性期医療を維持していく考えである。今後、県の調整会議等の中で南部地域における回復期病床の不足といった点が明確になってきた際に、市立病院として求められる対応についてしっかり検討していく。

【院長】令和 2 年度は決算の数値は非常に悪かったが、目標値に対しては全体で外来・入院含め約 80%であった。小児科、産婦人科、外科で低迷しており、内科、整形外科、眼科でそれを補っている。小児科及び産婦人科については、市内唯一の分娩施設ということで

存続をしているが、安定運営が困難となる原因にもなっている。市の方針に従うことになるが、当院の規模で総合病院として小児科・産婦人科を含む多くの科を保持することは、特に入院においては難しさを感じる。

【委員】公立病院は首長の意見が非常に大きいと思うが、市長の先ほどのお答えから回復期への転換の可能性があるととらえてよろしいか。

【院長】運営者としては、地域の需要に応じた形を模索すべきであると以前から考えている。

【市長】委員の受け止め通りで結構である。現時点では、南部地域での回復期のあり方の詳細について報告を受けていないが、今後の検討が必要な課題であると前向きに受け止めている。

【委員】2025年に目指した病床の機能転換に際して、今の市長の意見が今後の南部医療圏の調整会議に反映されていけばと良いと考える。

【委員】私が蕨市に住む決め手となったのは市立病院の産科・小児科の存在であり、今後の若い世代へのアピールにもなると考えている。小児科、産婦人科の収益状況が悪いことはわかるがその要因を分析することが重要である。

【院長】小児科については様々なことを提案したが患者増にはつながらず、地域において当院の小児科の需要が高いとは言えないのではないかと考える。

【市長】蕨市の人口減少社会におけるこれからのまちづくりを考えるうえで、当院の産婦人科・小児科は強みになると考えている。公立病院には不採算部門を担うという社会的使命があるため、院長には安定経営という面で苦勞をかけている。小児科の減少についてはコロナによる病院のかかり方の変化も影響していると考ええる。

議題（3）市立病院における新型コロナウイルス感染症への対応について

上記のことについて、事務局から説明した。

資料3 新型コロナウイルス感染症対応について

説明後、次のとおり質疑応答が行われた。

【会長】コロナの感染が拡がる中で、看護師の皆様方は非常に大変な思いで働いていたと

いう話も聞いているが、市立病院における体制はどうであったか。

【看護部長】当院は検査体制が充実しており、比較的安心して業務を続けられるような体制をとることができた。職員が家族の都合で休むこともあったが、皆で協力し合うことができたため、欠員や退職者を出すこともなかった。

【委員】昨年からのコロナ禍において、南部保健所管内の医療機関は非常に前向きに対応してくれた。医師会はPCRセンターを県に先駆けて設置し、蕨市立病院においては知見を活かして積極的な患者対応をしてもらった。保健所長として感謝する。地域医療構想では再編統合の対象である蕨市立病院だが、今回のような危機管理・有事のことも考慮した計画も必要であるという考えである。

【委員】第5波の際に病院を訪れたが、入院患者対応、ワクチン接種の応援体制、検査体制と、1階フロアを仕切りながら大変な状況であった。あの状況で院内感染を防ぎながらやれていたことに大変驚いている。コロナ対応についての感想があればお聞きしたい。

【院長】日本がコロナにまだ慣れていない状況の令和2年4月、産科病棟で母子感染が確認されたことが一番印象的である。全国報道され、産科の患者さんを全て他に移し、病棟を閉鎖することになった。そのことをきっかけに産科での患者が減少している。当院の産科が今後存続していけるのかという苦悩はある。入院に関しても、当院の構造上コロナ病棟を作ることが困難であるが、何とか場所を確保し3床まで対応できるようにした。コロナ患者を受け入れ、経験を積む中で、医師、看護師にも耐性が付き第5波を乗り越えることができたのは収穫であった。医療資源、特に人員やスペースが限られた当院で、多くのコロナ陽性者対応をしていたことについて、ある種の充実感があった。

【委員】私のクリニックでもコロナの流行の際には、市立病院に協力いただくことがあった。また、ワクチン接種については医師会の蕨地域担当であったが、市立病院には多くの枠を賄っていただき感謝している。今まで以上に市立病院の重要性を実感している。

【委員】昨年2月からのコロナについては身近なことではなかったが、説明を聞き市立病院では大変な状態であったことがわかった。

【委員】産科の利用が少ないことについて、何か今後の対策はあるか。

【事務局】一番重要なのは信頼関係、親身になって対応していくことであると考えている。例えば、妊婦のコロナワクチン接種に関しては、医師が予約者全員に直接連絡をとるとい

うようなこともあった。現在は立ち合い出産について再開の準備を進めている

【会長】市立病院と助産院との契約状況はどうか。

【事務局】協力医療機関として、複数の助産院と契約をしている。日ごろから医師と助産院で連絡を取り合い密接な関係を維持している。

【委員】友人が臨月にコロナに感染し、他の病院にはすべて断られる中、市立病院で出産できたことに大変感謝していた。利用者の声としてこの場でお伝えする。

(4) その他

委員から事務局に対して、事務関係の効率化やペーパーレス化について、他団体の状況を例に提案があった。

【院長】最後に3点話をさせていただく。1点目、令和元年秋に公的病院の再編統合リストが発表された。内容について納得している部分も多いが、発表方法に関しては憤りを感じている。発表により患者数が減少し、今もそれが継続しているという感覚はある。2点目、コロナ禍では、仮に当院が無ければどうなっていたのだろうかと思うこともある。限られた医療資源ではあるが、公立病院として一定の役割を果たすことができたのではないかと自負している。3点目、施設の老朽化について、院内の複数箇所が破損する等施設の劣化が目立つ。このままでは集客力が低下し、先細りは避けられない状況である。また、患者さんにとっても不誠実であると感じる。時代や地域に応じた病院を建てることは急務であると考えます。

【市長】本日は1年8ヵ月ぶりの審議会であったが、委員の皆様の貴重な意見に感謝する。コロナ対応では、施設的な制約がある中で、使命感を持ち市立病院の役割が発揮されたと思う。今後の病院施設の在り方については、現在検討を進めているところである。開設者としては市立病院がもつ様々な課題にスピード感を持って取り組んでいくという思いを新たにしたところである。

【会長】以上で蕨市立病院運営審議会を閉会する。